このまちで共に生きる

12月3日(月)～9日(日)は障害者週間。障がい福祉について関心と理解を深め、障がいのある人の社会参加を促進することを目的としています。

身体・知的・精神などに障がいのある人(障害者手帳所持者)は平成30年4月現在、市内に約18,000人。

障がいを知り、理解することで誰もが安心して暮らせるまちづくりについて考えてみませんか。

問☎712-8517、FAX712-8727障害者支援課

知ってほしい 障がいがある私たちのこと

「障がいの有無に関係なく、みんなで市川に新しい市民ミュージカルの花を咲かせよう」との思いから2005年に始められた、チャレンジド・ミュージカル。現在およそ51人が参加しています。

チャレンジド・ミュージカルの公演は12月9日(日)に行われる I♡あいフェスタでもご覧になれます。

▲地域の祭りやイベントで公演を行っています

木下(きのした) 静男(しずお)さん

先人たちのおかげで今の自分がある。今度は自分が手助けをする番

15年前に直腸がんになり、術後オストメイト(人工肛門をつくった人)に。体の内部に障がいがあるので見た目に分かりにくいのですが、私の場合便の排せつを自分でコントロールすることができません。そのため、腹部に造ったストーマ(排せつ口)にストーマ装具(袋)を貼って便をため、便がたまったらトイレで排出しています。

困ることもいろいろありますが、これまでの先輩方の尽力のおかげで私は障害者手帳や補助を受けることができています。今度は自分が他の障がい者の方のことも理解しながらできる限りの手助けをしたいと思い、現在災害対策に取り組んでいます。避難所のバリアフリー化や薬・装具の入手方法など、私たち障がい者が特に困ることを障がい者本人はもちろん、みなさんにも知っていただきたいんです。訓練や話し合いの積み重ねにより災害時の課題が一つひとつ解決され、ひいては障がいのある人と障がいのない人が共に手を携えるきっかけになればと思っています。

共生は人とのつながりから

20数年前、高校生の頃から幻覚や幻聴といった症状が出始め、30歳のときに統合失調症と診断されました。現在は投薬治療を行っています。趣味は中学生の頃から続けているキーボード。月1回、飲食店での演奏でお客さんに喜んでもらえるのが一番うれしく、それが「生きる力」になっています。また、そこで出会う障がいのある人・ない人、さまざまな人とのつながりは私にとって「財産」。私にとっての共生社会とは、そういうところにあるのだと思います。

私を含め障がい者の中には、街なかで突然発作が起こったり具合が悪くなったりする方がいます。そんなときに「どうしましたか」と一言声をかけていただくことができたらとてもありがたく、それが私たちの救いになると思います。

明石(あかし) 健太郎(けんたろう)さん

障がいのある人もない人も共に創(つく)り上げるミュージカル

由田(よしだ) 祥子(さちこ)さん

楽しいです 頑張っています

楽しそうに踊っていた祥子さんに聞きました。

－ミュージカルは楽しいですか？

「はい。楽しいです」

－何が一番楽しいですか？

「ダンスです。頑張っています」

－桶本さんはどんな方ですか？

「おけちゃんパパ(桶本さん)はとても優しいです。面白い役が上手です」

母の気持ち(由田鈴子(たいこ)さん) ダウン症の娘は11年前からこの活動に参加しており、娘をはじめ、仲間のみなさんも本当に楽しそうに続けています。明るい笑顔で練習を繰り返す姿を見て、私もその情熱に感動しています。娘は安心して自分らしさを出せる仲間と場所を見つけることができたと同時に、娘自身が自分の新たな一面を見つけることもできました。多くの方のおかげで、娘はつつがなく成長することができ、本当にありがたいと思っています。

このミュージカルを見て参加していただくことで障がいがある人への理解が進むと、娘はもっと暮らしやすく幸せになると思います。

桶本(おけもと) 武志(たけし)さん

仲間の、そして自分の可能性が広がる場

きっかけは 小学校でもらってきたこのミュージカルの公演のチラシをきっかけに、まずは子どもが参加しました。当初私は稽古に付き添っていただけなのですが、気がついたら私の方がハマってしまい、子どもが辞めた2年ほど前から私が参加するようになりました。

続けている理由 とにかく楽しいんです。自分が楽しんでいるのももちろんですが、さっちゃん(由田さん)をはじめ仲間たちみんなが楽しそうに演じているのを見て、私もさらに楽しくなる。だからずっと続けているんだと思います。それぞれが自分にできる方法で生き生きと表現しているのを見て、みんなの可能性を感じられるのがとてもうれしいです。

そして最近 このミュージカルがきっかけで、新たにダンスも始めました。テレビでダンス番組を見ていても「自分がすることはないな」と思っていたのですが、始めてみるととても楽しいです。このミュージカルを通じて仲間の可能性が広がっていると感じると同時に、私自身の可能性も広がっている、それがこの活動の醍醐味(だいごみ)かもしれません。

ぜひミュージカルを観(み)に来て、みんなが輝いているのを見てほしいなと思います。

飯作(いいさく) 吉民(よしたみ)さん

「お手伝いしましょうか」その一言がありがたい

ベーチェット病のため25歳ごろから徐々に視力が低下し、30歳で失明。失明後、盲学校で鍼灸(しんきゅう)あん摩マッサージ指圧師の勉強をし、昨年まで仕事をしていました。「飯作先生じゃないとだめだ」と40年来の患者さんがいてくれたのは本当にありがたく、この仕事に感謝しています。

障がい者を取り巻く環境は、バリアフリーなどの環境の面でもみなさんの気持ちという面でも以前と比べて随分改善されたと感じています。私が一人で外出する際にも「お手伝いしましょうか」と、通行人の方が手を差し伸べてくださるのが本当にありがたいです。80歳を過ぎた今は毎日生きていること、それ自体がとても楽しいです。世の中にはまだまだ自分が知らないことがあり、ラジオなどから情報を得ては、学ぶ楽しさを実感しています。孫の成人を共に祝いたいので、100歳まで生きたいと願っています。

ヘルプカードを知っていますか？

ヘルプカード

援助を必要としている障がいのある方などが携帯し、いざというときに必要な支援や配慮を周囲の人にお願いするためのカードです。

障がいを知り 理解しあう I♥あいフェスタ

障害者週間にあわせ、障がいのある人もない人も共に楽しめる催しを行います(手話通訳と要約筆記あり)。

日時 12月8日(土)午前11時～午後4時

手工芸品や食品の販売、体験コーナー(点字名刺の作成、軍手で折り紙、イヤーマフ体験など)

12月9日(日)午前11時～午後3時30分

おもちゃ図書館、音楽の演奏やミュージカルの公演、パフォーマンスの披露など

場 ニッケコルトンプラザ コルトンホール(鬼高1-1-1)

問 ☎712-8517、FAX712-8727障害者支援課

❶福祉施設で作った蒸しパンを販売

❷大人から子どもまで、多くの来場者でにぎわいます